

鯉淵学園の思い出

今回の鯉淵学園の思い出は、加藤 整さん(10期生)が引き続き書いてくださいました。

「舟木開拓」のこと

「支部だより」の第9号で紹介した村上利夫さん(研究科11期生)の『明治期・波東農場史』が話題になっているそうです。

これは村上さんが昭和30年に鞍田先生のご指導のもとでまとめられた『畑作農業の展開過程』の一部をなすもので、茨城県でも最も早い研究でした。しかも鞍田先生に提出された全体の論文はその後行方不明になってしまいましたが、「波東農場史」の部分は下書き原稿が残されていたお陰で、昭和22年に半世紀ぶりに活字にすることができた訳です。

茨城県で舟木開拓の研究を手掛けられたのは、昭和30年代後半からのようで、木戸田四郎氏(茨城大学)がこのことで鞍田先生を訪ねられたのは昭和36年頃です。このとき木戸田氏は、「鞍田先生はその時すでに波東農社について詳しい資料を入手され、ご発表が近いと思いましたが」と述懐されています。



ところが、村上さんの原稿(畑作農業の展開過程)は、ついに発表されることはありませんでした。それは原稿が行方不明になってしまったからです。と言っても鞍田先生には、これは分かっていたことだと思われまふ。私は次のような経緯によるものと考えています。

- ① これが農水省の委託事業であったこともあり、鞍田先生は今少し原稿を推敲したいと考えておられた。
- ② ところが当時鯉淵学園では財政問題等諸般の事情で、鞍田先生には原稿を手直りする余裕がなく、未定稿の原稿は学園内の先生の机の中で眠ったままになってしまった。
- ③ そして先生の逝去後、学園内にあった先生の持ち物はダンボール箱に入れて鞍田家に届けられたが、この中に「未定稿・畑作農業の展開過程」があったらしい。
- ④ こうして鞍田家に届けられたダンボール箱は、鞍田夫人によれば東京の古書籍商に一括処分されたとのことであり、その中にこの原稿が入っていた可能性が高い。(古書籍市場に出る可能性もあるので、

注意しておいていただきたい)

私の推測するところでは以上の通りであります。せめて「波東農場史」部分だけでも活字になしえたことは、不幸中の幸いであったと思います。

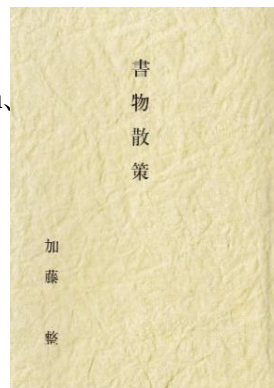
さて、今日の舟木地区は昭和30年代とは様変わりです。当時はまだ一面陸稲(おかぼ)や甘薯畑でしたが、今日では野菜の一大生産地で、鉾田市の野菜の生産額は、市町村単位で見ると全国一だそうです。特にメロンは有名で、ビニールハウスが随所にみられます。この関西地区のスーパーでも、「旭村のメロン」として人気が高いそうですが、この一大産地を作り上げたのは、14期生の浅田昌男さん(旭村農協営農指導員、北海道出身)であることは鯉淵学園にとっても誇りとすべきことでありましょう。

加藤 整(10期生)

小冊子「書物散策」を作成

加藤 整さん(10期生)が平成29年4月に「書物散策」という小冊子を作成されました。この小冊子は加藤さんが読まれて印象に残った書物の紹介をある書店のPR誌に投稿したもののの中から作成されたそうです。

加藤さんから贈呈いただいたこの小冊子は、興味深い内容が沢山盛り込まれた豆本(縦13cm、横9cm)です。支部だよりの編集者は、服のポケットにこの豆本を入れ、喫茶店、電車の中、人との待ち時間などで取り出し、とても楽しく読んでいます。



小冊子「書物散策」

“あの人は今” 同窓生紹介

同窓生を紹介するコーナーのタイトルを今回から『“あの人は今” 同窓生紹介』に変更いたしました。

毎回、同窓生に直接連絡して趣旨を説明し、同意が得られると取材をさせていただいています。自薦、他薦どちらでも結構です。編集者までぜひ連絡ください。

今回は、辻 伴子さん(27期生)、武久正篤さん(28期生)、木村毅司さん(33期生)を取材させていただきました。ご協力ありがとうございました。

夫婦でもっと社会貢献を

辻 伴子さん(27期生)



美しい庭園を背景に辻さん

5月26日、西宮市山口町にお住まいの辻 伴子さん(27期生)をお訪ねしました。車のナビを使用し、中国自動車道の滝野社ICから西宮北ICまで走り、西宮北IC近くの辻さんの自宅周辺までは順調に来たのですが、自宅がわからず停車してもう一度ナビを検索していると、突然、辻さんがやって来られました。「なんと、辻さんのご自宅前まで来てナビ検索とは恥ずかしい」と私は照れくさい気持ちになりました。

美しい庭園の旅館で取材

辻さんへの取材は、有馬温泉「銀水荘 兆楽」の喫茶ラウンジでさせていただきました。その旅館の玄関正面に広がる美しい庭園と、旅館のシンボルといえる入り口付近の立派な「ヤマモモ」の樹は、どちらも辻さん夫婦が息子さんと経営されている(株)緑花園(植木生産・造園業)が作庭・植樹されたそうで、旅館を訪れた者にとって印象深く心に残っています。また、取材当日はよく晴れていたため、有馬温泉の高台に位置している「銀水荘 兆楽」から見る有馬の山並みが新緑に映えてとても美しく思いました。



シンボリックな存在のヤマモモ



玄関先に広がる見事な庭園

学園時代は活発な女子学生

辻さんは、佐賀県杵島郡大町町の出身で地元の高校を卒業後、鯉淵学園生活栄養科(3年制)に入学されました。当学園に入学した動機は、将来地元の農協に就職してほしいという父親の願望からだったそうです。そして「専業農家の父は地元農家のリーダー的な存在で、特に教育に関しては熱心であった。当学園の入学式や卒業式にも参列していました」と他界された父親を偲んでおられました。

恩師は川井 光先生で、「御茶」に関することを特別研究のテーマにしたそうで、「抹茶の和菓子进行调查のために島根県松江まで出かけたことがあった」と忘れてかけていた記憶を辿りながら話されました。また川井先生の自宅(友部町)に友人とともに、よく遊びにいったそうです。そして「先生の提案で20歳の成人式記念に友だちと笠間で茶碗を焼きました」と先生との思い出を懐かしく話されていました。卒業旅行は長野県の本曾路を友人7~8人で楽しく歩いたことが最終学年の思い出として残っているそうです。「学業の傍ら、アルバイトをした喫茶店のマスターがいい人で映画や食事につれて行ってもらいました」と辻さんは話されていました。自治会活動では文化部に所属、クラブ活動はサイクリング同好会に入り、男子と女子7~8人で野原にテントを張り、富士山の3合目まで登ったそうです。辻さんは何でも挑戦する活発な女子学生だったそうで、「卒業後の就職を思い、栄養士や生活改良普及員の資格を取りました」と笑顔で話されていました。

佐賀から兵庫にきて造園業を

昭和48年に卒業された後、他界された父親の遺志により、地元の佐賀県杵島農協に就職し、1年目は金融の窓口、2年目と3年目は生活指導員、広報の業務に従事されました。その後、昭和51年に縁があってご主人と結婚され、佐賀県から遠く離れた西宮市山口町に住み、その3年後に同じ町内の現住所に移られたそうです。ご主人は植木生産・造園業を営む(株)緑花園の社長(三代目)で、息子さんが専務(四代目)、そして辻さんが取締役だそうです。

植木生産・造園業を営む中で特に印象に残る出来事をお聞きすると、辻さんは「今では法人であるが個人でやっている頃、現場を2ヶ所位かけ持ちをしていて、市役所近くの街路樹の植栽であったと思いますが、長雨が続き工期も迫っていたため、雨の中でボトボトにぬれながら街路樹の足元に地被植物を植える作業をしました」と当時の苦労話をしていただきました。また、「神戸淡路大震災後、各学校や体育館などで避難生活をされている方が使用するトイレの水を農業用水路などからタンクに汲み上げ、配水するために避難所を回りました」と被災者のために造園用のタンクを活用した話をされました。

夫婦で参加する地域貢献活動

地域社会への貢献活動には、どんなに忙しくても進んでご夫婦で参加されているそうです。毎年5月末に開催される西宮市「西宮を花と緑にする会」主催の「フラワーフェスティバル in 西宮」には、賛同企業として協力し、「県民まちなみ事業」には、講師役のご主人とともに参加されておられます。毎年9月末に開かれる「明石まちなみガーデンショー」には、JR明石駅周辺でミニガーデンづくり、花飾り、吊り下げ作業などに協力し、また、兵庫県が主催している「ひょうご景観園芸産業研究会」にも会員として参加されておられます。

趣味の寄せ植えで受賞

現在、取り組んでおられる趣味をお聞きすると、「水墨画を描くこと、寄せ植え・ハンギング、苔玉づくり」と話していただきました。いろいろな絵画を鑑賞されるそうですが、水墨画については岡山の観音寺に飾ってあった水墨画に感動し、その時から興味が湧き自分でも描くようになったそうです。

寄せ植え・ハンギングでは、昨年の「フラワーフェステ・ハンギング部門」に出品し、見事に市長賞を受賞されました。近年、静かなブームになっている苔玉づくり（寄せ植え）は昨年から挑戦されているそうです。



市長賞の寄せ植え

これからも社会に貢献したい

辻さんに将来へのビジョンをお聞きしました。すると「子供たちもそれぞれ結婚し巣立っていきました。いまのところ主人も私も現役でやっていますが、今後は自分たちの健康面も考えながらスローライフを楽しみたい」、そして「今まで培ってきたことで何か地域の皆様に必要とされたり、お役にたてる場所があれば、社会貢献的な活動も含めやっていければ幸いです」とこれからのライフワークに明るく目を輝かせて話されていました。

同窓会は交友を深めて情報交換を

最後に同窓会に関する意見や要望をお聞かせいただきました。辻さんは、「多感な青春時代を共に三年間寝起きし、同じ釜の飯を食べた仲間は格別な存在です。私たち同期生も60代後半に入り、シニア時代を迎えています。今なお現役で頑張っておられる方から一線を退いて年金生活に入っておられる方まで様々です。時には同期会や県支部会で集まって交友を深め、お互いに情報交換しながら良い意味で刺激し合い、そしてパワーをいただき明日への活力につなげていけたら」とその思いを熱く話していただきました。

約90分の取材でしたが、編集者から多様な質問をしましたところ、丁寧に答えていただき本当に有り難うご

ざいました。予想していた辻さんのイメージと違って、行動力、バイタリティーのある生き方に心を動かされました。本県の支部会『鯉淵ひょうごの集い』は、来年に開催いたしますので、ぜひ参加して交友を深めてください。また、帰り際には苔玉をいただき有り難うございました。わが家の玄関で大切に育てたいと思っています。辻さんの益々のご活躍を期待いたしております。

釣りと果物作りが生きがい

武久正篤さん（28期生）



大きなチヌの魚拓を手に笑顔の武久さん

4月24日、神戸市西区月が丘の閑静な住宅団地にお住まいの武久正篤さん（28期生）を訪ねました。今月は4月にもかかわらず、平年と比べて気温が高く、野菜を栽培する農家にとって一雨がほしいところ、この日は幸いにも朝から恵みの雨が降っていました。車で武久さんの自宅近くまで来ると、雨の中にもかかわらず自宅から出て快く迎えてくださいました。

楽しく充実した学生生活

武久さんは、地元の高등학교（普通科）を卒業後、昭和46年に鯉淵学園畜産科（3年制）に入学されました。入学した動機は、「父がカーネーションを栽培し、伯父が酪農をやっていたことと、父は将来農業改良普及員になってほしいと思っていたことが大きい」と話されました。しかし、高校が普通科だったので、入学当時は農業の専門用語がわからなく苦勞の連続だったそうです。また恩師は砂田義雄先生で武久さんだけが特研生であったため、特研テーマ『都市酪農と北海道酪農の違い』を研究する時にはマンツーマンでよく指導していただいたそうです。そして研究の一環として、北海道の酪農の本場、千歳市長都で30日間、ホームステイをしながら実習されたそうです。この貴重な体験が視野の広がりにつながったと話されていました。講義では「よく寝ていたし、代返もよくしていた。もっと勉強していればよ

かった」と武久さんは当時を振り返り話されていました。

寮生活は「楽しく過ごすことができたが、肝試しは本当に怖かった。しかし、肝を据えるということでは大変よい体験をした」と話されていました。自治会の活動では、厚生部や体育部に長く在籍されていたようで、一昨年には当時の仲間で作った「バローの会」に集合したそうです。県内、県外の友人とは疎遠になりつつあるが、年賀状でやりとりをしたり、仕事で出張したときには友人を訪問したりしているそうです。クラブ活動では、サッカー部に入り茨城県4部リーグに参加し、大洗の動燃・原研のグラウンドで試合をしたと話されていました。

「2年生の時には、友人と二人で自転車をつかい、友人の親戚で2泊した以外は寝袋で野宿しながら帰省した。確か7日間ぐらいで淡路の実家に着いたように思う。残念なのはこの時の記録が残っていないことだ」と、さらに「学生の特権と学割の恩恵を利用して、奥入瀬、白樺湖、富士山、北海道南などを旅行した」と楽しかった思い出を話されていました。

多くの人たちに支えられた現役時代

武久さんは鯉淵学園を昭和49年に卒業後、兵庫県に農業改良普及員として奉職されました。最初の赴任地は柏原農業改良普及所、次に西脇・神戸・加古川農業改良普及所に転任され、主に果樹や地域の普及活動を20年間担当されたそうです。平成6年からは農林水産技術総合センターで果樹の専門技術員として10年間、普及員への指導や連絡調整に務められました。そして平成16年からの6年間は、柏原・山崎・阪神の農業改良普及所で所長・副所長として事務所の運営に務められました。平成22年からは兵庫県立農業大学校の校長として3年間、農業の担い手育成に関わり、平成25年に兵庫県を退職されました。退職後は、兵庫県農業会議で平成30年3月までの5年間、就農支援センター長として新規就農希望者から認定農業者までの人材確保と育成事業に従事されました。

現役時代を振り返って、特に印象に残っていることをお聞きすると、武久さんは「普及員の心構えとして、神戸普及所の所長『大きなところでお互いを高めよう』を大切な言葉として常に意識していました。どんな仕事でもこの言葉に支えられたことと、また先輩・同期・後輩・先進農家・農業青年など多くの人たちにも支えられた現役時代であった」と当時を振り返り懐かしく話されていました。

退職しても特技を活かした社会貢献

地域社会への貢献活動では、お住まいの月が丘住宅団地の役員として地域活動に取り組まれているほか、兵庫県立農業大学校やいなみの学園で果樹の講義や実習、そして楽農生活センターで稲作のインストラクター、神戸市のシルバーカレッジで果樹の講義などを随時担当されているそうです。最初は「地域には何にも貢献していない」と武久さんに言われたので、疑問に思い詳しくお

聞きすると、特技を活かしたこのような立派な地域への貢献活動をされていました。

好きな釣りを75歳まで続けたい

武久さんの趣味の一つは釣りで、昭和57年に先輩に誘われて行ったチヌ釣りが面白かったので、その時から夢中になり、家島や沼島の磯によく釣りに行ったそうです。最近は船釣り専門だそうで、狙う魚の年間ローテーションは、「メバル・ガシラ→タイ→タコ→太刀魚→アオリイカ→ウマヅラハギ→メバル・ガシラ」といった順。年により夏にアジ・サバもある」と詳しく教えていただき、75歳まで釣りに出かけたいそうです。また、釣った魚はどうされるのかとお聞きすると「もちろん、釣った魚は自分で料理して自宅で食べたり、お裾分けしたりしている」と楽しそうに話されていました。

もう一つの趣味は果物づくり。平成2年に家を建てられたとき、家の周りに果樹を植えられたそうです。樹齢28年になるリンゴと桃は今でも現役で、他に梨、イチジク、ぶどう、ブルーベリーが植えられています。閑静な住宅団地の中で、武久さん宅の白壁と果樹の緑がよく映えていました。



自宅の果樹を背景に武久さん

健康で無理をせずわがままに

今後の暮らしの計画やライフワークをお聞きすると、「健康で無理をせずわがままに」をモットーに、「釣りと果物づくりを生きがいにして、余裕が出てきたら野菜づくりに挑戦したい」と話されていた武久さん。「規則正しい生活スタイルをつくるように」と言われているようで、当面は起床してウォーキング5,000歩で体を温めてから、その日の行動に移るようにしているそうです。また「現役時代に出来なかった整理整頓を4月中に終わりたい」と話されていました。

学園はインターンシップの構築を

最後に母校に対して、武久さんは「少子高齢化で農の担い手不足が顕著です。まさに即戦力の人材を全国に送り出す使命が学園に求められています。その期待に応えてこそ魅力ある学園です。同窓生として協力できることも多いですが、インターンシップの受け皿になることも一つの方法です」と指摘して、学生に実務能力の育成と職業を選択させるため、同窓生が経営する農業等を体験させる制度の必要性を強調されていました。また学園の学生諸君には「旅に出かけよう。そして学生時代にしかできない同期生の家めぐりをしてはどうか」とアドバイスをいただきました。

武久さんには、同窓会兵庫県支部の副会長として支部活動の運営に協力・支援していただき大変感謝しており

ます。これからも趣味を楽しみ、そして特技を活かしながら元気で活躍されることを期待しております。

今後の人生を謳歌したい

木村毅司さん(33期生)



自宅玄関先で木村さん

暦の上では小満を過ぎ、草木の緑が美しい5月23日、国道176号線を走り、鐘ヶ坂トンネルを抜けて、篠山市町ノ田にお住まいの木村毅司さん(33期生)をお訪ねしました。車窓からは5月の連休に植えられたコシヒカリの苗がずいぶん成長しているように感じられました。

富士山頂から見た日の出に感動

木村さんは、加西市の県立播磨農業高校(全寮制)を卒業後、昭和51年に鯉淵学園園芸科(3年制)に入学されました。鯉淵学園に入学された動機は、自宅が葉タバコ農家であったこと、そしてお住まいの地区に鞍田 純先生の友人がおられ、その友人に学園を紹介され入学したそうです。学生時代を振り返り、「勉強に力を入れたという思い出はなく、楽しい学園生活、寮生活を送れた。特に寮での生活は高校を合わせると6年間だった」と話されていました。自宅からの仕送りは2~3万円で、現金書留が届くとすぐに友部や水戸の街に繰り出し、親の思いとは別によく遊んだと話されていました。

寮生活では思い出が多く、「東寮は他の寮よりも古い木造作りなので、すきま風が冷たく、コタツは練炭で寒さに耐えながら、寮生と鍋で作ったインスタントラーメンを箸で突き合い食べた」と懐かしそうに話されていました。自治会活動では、厚生部に所属し風呂の清掃や環境整備などに組み込まれたほか、富士山の山開きに初めて登り、富士山頂から見た日の出や雲海の美しさに感動したそうです。また、学生時代によく遊びに行った偕楽園、袋田の滝、大洗海岸などの観光名所が近年、テレビなどで紹介されると懐かしさと、もう一度訪れたいという思いに駆られるそうです。

地域農業の振興に貢献

昭和54年に鯉淵学園を卒業され、丹波農協(平成14年に篠山町農協と合併し、現在は丹波ささやま農協)に就職されました。丹波農協に入組された当時から約20年間は、営農指導員、営農係長、販売課長など、主として営農・販売事業に従事し、地域農業の振興や特産物の販売に貢献されました。その後、金融部門に異動され融資課長、西紀大山金融支店の支店長、そして営農販売部の副部長を経て、58歳を迎えられた平成28年に当農協の管理職定年制度を選択し退職されました。

現在は、篠山市役所農都政策課の地域連携推進員として週4日勤務されています。また、勤務の傍ら、自作地と近隣農家から預かった約2.5haの農地で水稻や特産の黒大豆を栽培されています。

職員管理の難しさを痛感

農協に在職中、特に印象に残っている出来事をお聞きすると、木村さんは「昭和61年からのバブル時代の5年間は農協の景気がよく、職場の親睦旅行で東南アジア方面に旅行して、親しい職員とゴルフや酒を酌み交わした」と楽しい思い出を話されました。

また、平成10年頃は転作率が44%、そのうえ特産の丹波黒大豆が大豊作だった影響で販売価格が低迷し、丹波黒大豆の販路開拓や商品開発に奮闘されたそうです。木村さんは「以前と比べて農業者が高齢化し、丹波黒大豆、丹波山の芋の面積が減少傾向である。その特産物を守り維持する活動に、JAや市が一体となって多様な施策を打ち出しに取り組む必要がある」と地域の農業、農家の実情を話しながら今後の特産物生産に期待を寄せられていました。

さらに木村さんは、金融支店長時代に部下職員の横領事件という苦い経験をされたことも話していただきました。そのときに職員管理の難しさや早期解決の重要性を痛感されたそうです。

自治会目標の実現に取り組む

木村さんは地元集落(40戸)の自治会長に就任されて、現在3年目に入るそうです。「ひと・文化を育む自治会活動」という目標を実現するため、今の社会に即応した若年層(30~40歳代が12人)の組織・活動づくりや里山整備など市補助金を活用した人材育成、インフラ・環境改善活動に取り組み、住みよい集落づくりを目指しているそうです。

趣味は歴史探訪

趣味をお聞きすると、「年をとるにしたがって、歴史に興味をわき、NHKテレビの大河ドラマ、歴史秘話ヒストリア、ブラタモリの番組が好きになった。それらの番組で紹介された名所や地域を妻と一緒に車で訪ねるのが楽しみ」と歴史好きの木村さん。訪ねられたところは、富士五湖、彦根城、黒部ダム、京都、高知城、有馬温泉など多数で、職業柄、ファーマーズマーケット巡り

もされているそうです。

また、平成 32 年には、戦国武将の明智光秀を描いた NHK 大河ドラマ「麒麟がくる」が放映される予定で、その撮影地として明智の敵方である波多野秀治が築いた八上城跡、丹波攻めの目的で明智が築いた丹波金山城跡などが候補にあがっているそうで、その時が楽しみであると話されていました。

人生 100 年を謳歌したい

木村さんは、「織田信長は人生 50 年と謡いましたが、現在は 100 年の時代と言われており、昔の人に比べると 2 回分人生がある」と前置きし、「定年までは働くことが中心でしたが、今後は家庭、家族のことを考えながら、『働く、学ぶ、遊ぶ、休む』をバランスよくとり人生を謳歌したい」と笑顔で話されていました。

最後に同窓会に対する率直な意見をお聞きしましたところ、木村さんは「現職の時は、支部総会などに出席できなかったが、今は仕事と気持ちに余裕が感じられるので積極的に参加したい」と事務局にとって大変有り難い言葉をいただきました。編集者も木村さんと同じ農協界を退職して数年になりますが、お話に共感できるところがたくさんあり、すごく参考になりました。木村さん、これからも元氣でご活躍されることを期待しております。

した。

一日目は、6 時から大広間で 27 期の会が始まり、幹事の簡単な挨拶のあと、近況報告、懇親と続き、そして最後に全員で肩を組み寮歌斉唱で閉会としました。全体の会が終わったあとも、久しぶりに再会した旧友と懐かしい学生時代や寮生活の思い出を語り合うなど、夜遅くまで時間を忘れるほど盛り上がったそうです。

二日目は大型バスで観光に出かけました。初めに西宮市に行き、地元では福の神として崇敬され「西宮のえべ



『27 期の会』のしおり

っさん」と親しまれている西宮神社で参拝したあと、日本酒をテーマとする「白鹿記念酒造博物館」で酒づくりの工程、酒にちなむ美術工芸品などを見学しました。次に神戸市北野の異人館街を訪れ、「萌黄の館」をはじめ、美しいレンガ造りの外観と屋根上の風見鶏が特徴的な「風見鶏の館」などを見学しました。次回、富山県宇奈月温泉での再会を約束して、二日間の楽しい『27 期の会』を閉じました。(この記事は幹事の辻さんから同期会のお話をお聞きして編集者がまとめました)

同期会の情報

同期会の開催内容を毎回掲載しています。最新の同期会情報があれば編集者までご連絡ください。

『27 期の会』を神戸で開く



神戸北野の風見鶏の館前にて

『鯉淵学園 27 期の会 in ひょうご』が 2 月 25 日から 26 日、有馬温泉「銀水荘兆楽」で開催され、全国から 37 名（男性 23 名、女性 14 名）が参加しました。この会は 3 年ごとに開かれているもので、今回は兵庫県が幹事（辻伴子さん）で、近隣府県の同期生が協力して開催されま

転居のお知らせ

加藤 整さん（10 期生）と奥様の定子さん（11 期生）が昨年 11 月末に転居されました。加藤さんご夫婦には、引き続き兵庫県同窓会支部会員として在籍していただきます。

（新住所）

〒619-0224

京都府木津川市兜台 5 丁目 1-13-2-505 号

電話 0774-73-5040

訃報

藤本敏雄さん（24 期生）が平成 30 年 4 月 13 日に逝去されました。慎んでご冥福をお祈りいたします。

編集後記（平成 30 年 6 月）

支部だよりに関するご意見・ご感想をお寄せください。また、住所・電話番号・職業等の変更があれば編集者まで必ずご連絡ください。

編集者：福井寛行（26 期生）

〒677-0038 兵庫県西脇市大垣内 44-2

TEL (FAX) 0795-22-1815 携帯 090-1022-2672

E-mail : hirokei-677@hera.eonet.ne.jp